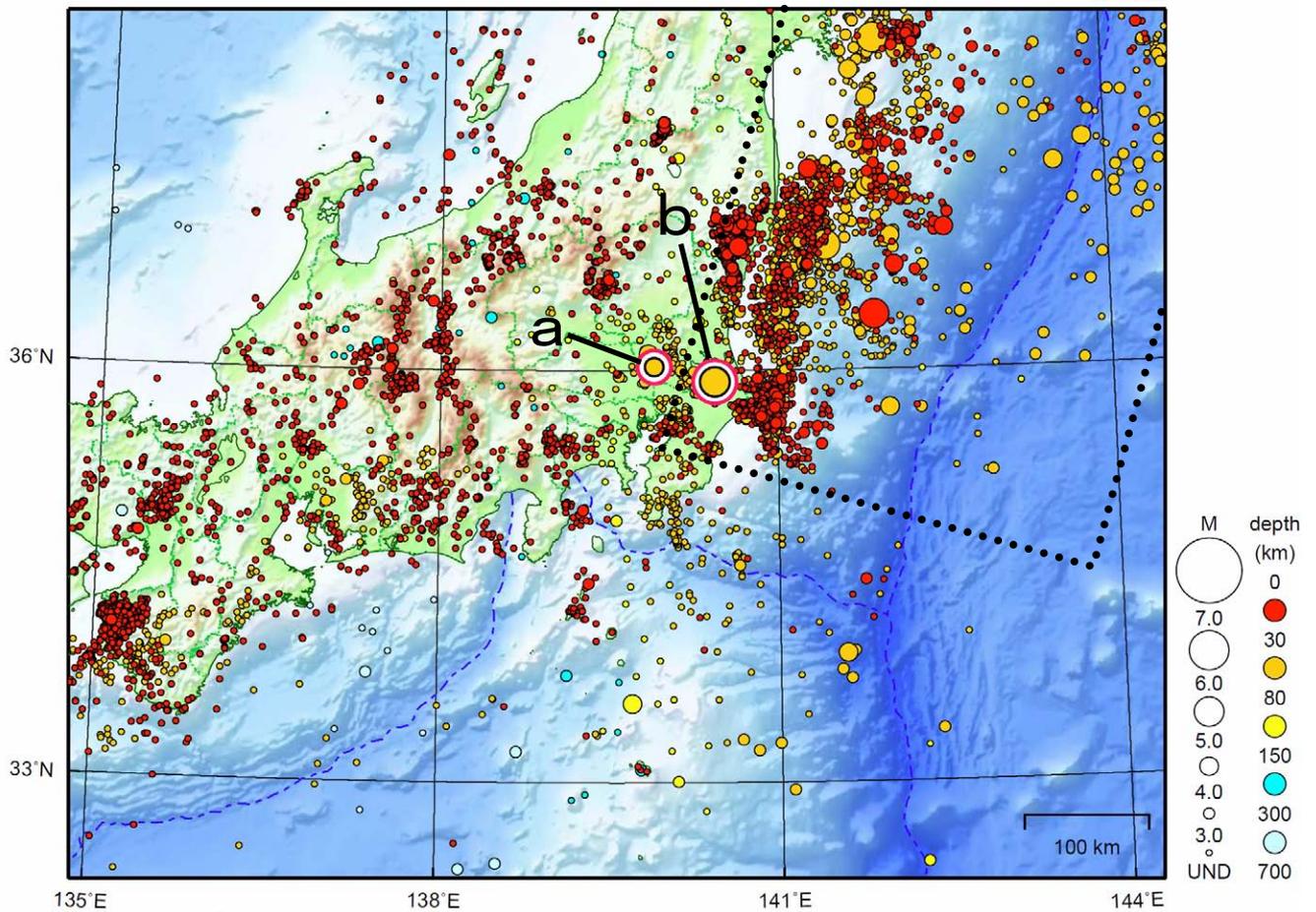


関東・中部地方

2012/08/01 00:00 ~ 2012/08/31 24:00

N=8692



※ 点線は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

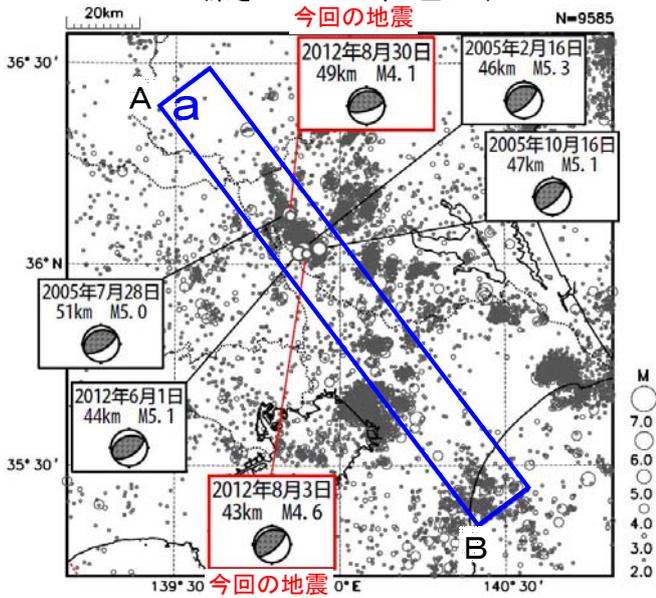
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

- a) 8月3日に茨城県南部でM4.6の地震（最大震度4）が発生した。この地震の震源付近では、30日にもM4.1の地震（最大震度3）が発生した。
- b) 8月20日に茨城県南部でM5.2の地震（最大震度3）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

8月3日、30日 茨城県南部の地震

震央分布図（1997年10月1日～2012年8月31日、深さ0～100km、 $M \geq 2.0$ ）



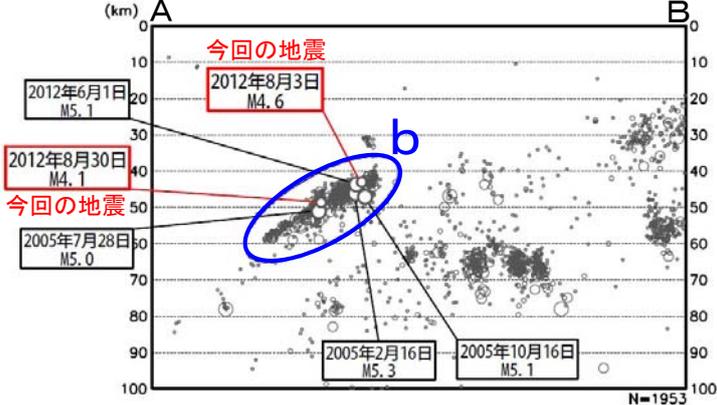
2012年8月3日22時19分に茨城県南部の深さ43kmでM4.6の地震 (最大震度4) が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

また、8月30日04時17分に茨城県南部の深さ49kmでM4.1の地震 (最大震度3) が発生した。この地震の発震機構は北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

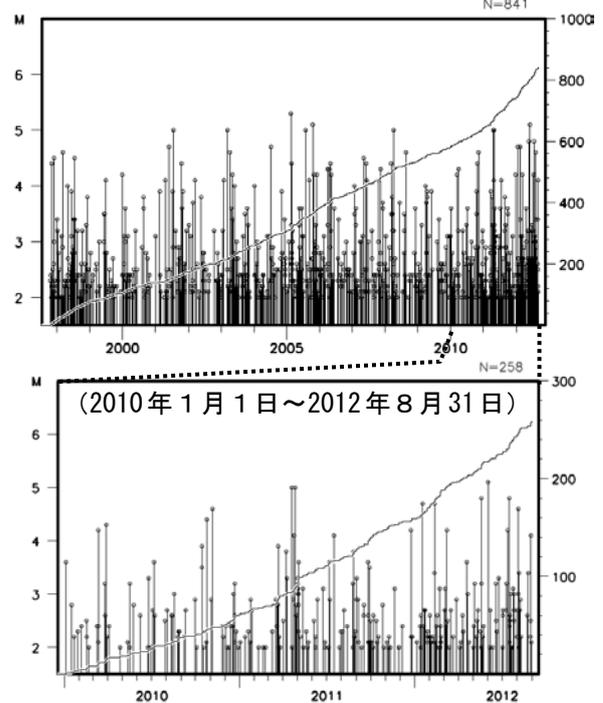
いずれも陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震であった。

今回の地震の震源付近 (領域b) は、地震活動が普段から活発な領域であるが、「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」の発生以降、より活動が活発になっている。

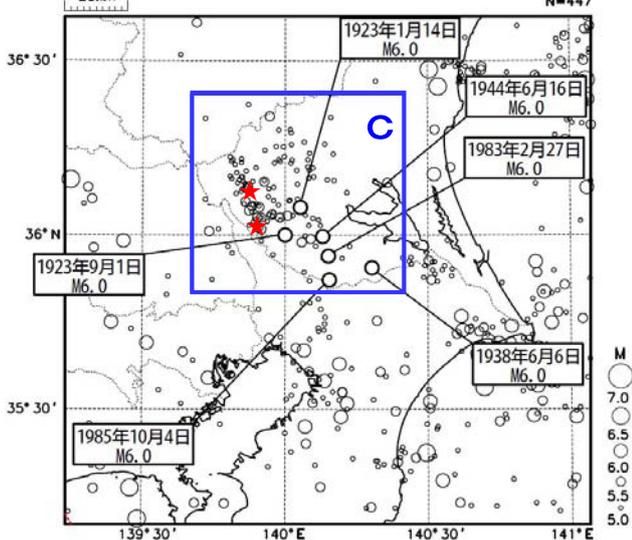
領域aの断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図および回数積算図

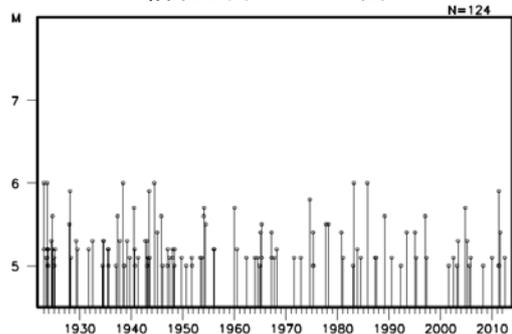


震央分布図 (1923年1月1日～2012年8月31日、深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0前後の地震が時々発生している。

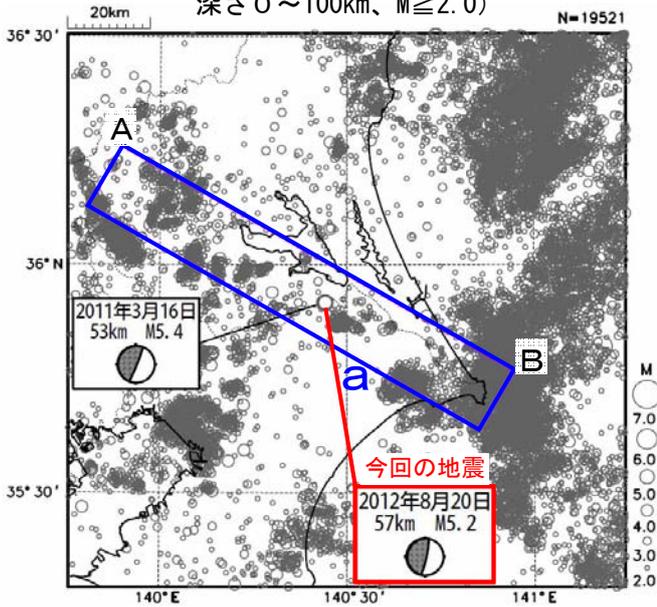
領域c内のM-T図



★は今回の地震の震央位置

8月20日 茨城県南部の地震

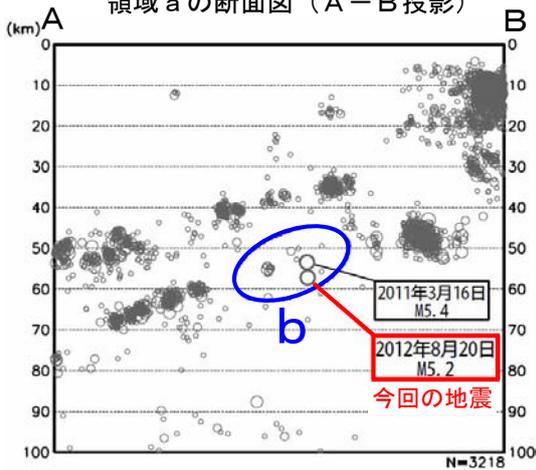
震央分布図 (2002年10月1日~2012年8月31日、
深さ0~100km、 $M \geq 2.0$)



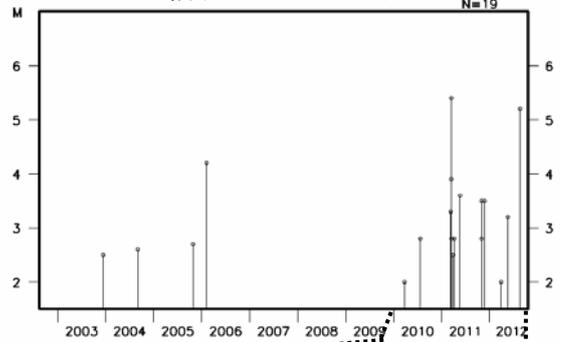
2012年8月20日20時42分に茨城県南部の深さ57kmで $M 5.2$ の地震 (最大震度3) が発生した。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと太平洋プレートの境界で発生した地震であった。

2002年10月以降の地震活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、地震活動は低調だが、時々 $M 4.0$ 以上の地震が発生している。このうち、最大の地震は、2011年3月16日の $M 5.4$ の地震 (最大震度4) である。

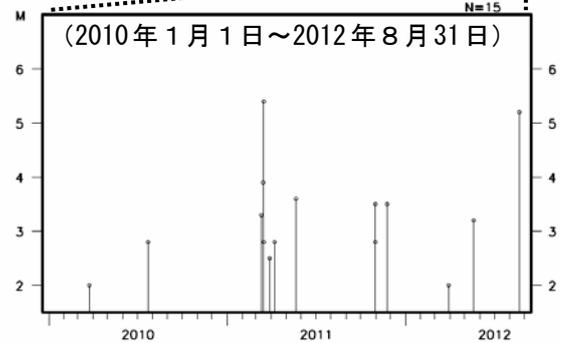
領域aの断面図 (A-B投影)



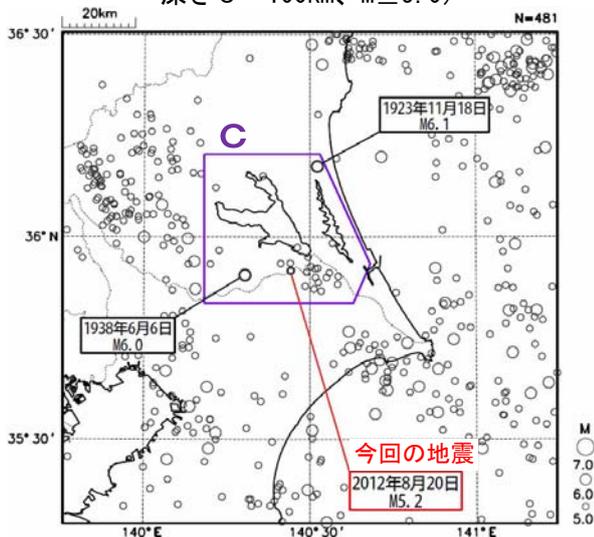
領域b内のM-T図



(2010年1月1日~2012年8月31日)



震央分布図 (1923年1月1日~2012年8月31日、
深さ0~100km、 $M \geq 5.0$)



1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M 5.0$ 以上の地震が時々発生している。

領域c内のM-T図

